平成29年度 学校評価表

学校番号	18	学校名	長野工業高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標	【至誠努力】 至誠努力の校訓の下、健康で自主的な精神を備えた社会のよき形成者としての資質を養い、工業の各分野における基礎的な知識・技能に精通した技術者を育成する。
---------------	---

学校重点目標	【高校生の人格を磨き、可能性を最大限伸張させるために、次の目標を推進する】 1 基本的な生活習慣確立と、挨拶・5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の推進を図る。 2 生徒個々の学力向上と、クラブ活動・生徒会活動の活性化を図る。 3 学校外の組織と連携をとり、職業教育・進路指導の推進とキャリア教育充実を図る。 4 いじめや体罰を許さない、安全・安心な開かれた学校づくりを図る。 5 『チーム長工』の一員としての自覚のうえに、教職員の研鑽と連携をもって教育活動の前進を図る。
---------------	---

評価基準：A 十分満足している B 満足している C 不満足である

評価対象	評価項目	評価の観点	評価	成果や次年度への課題（概要）
学習指導	教育課程	・教育課程が生徒の学力の伸長へと繋がるよう、シラバスの充実と観点別評価の工夫改善を図る。 ・教育課程研究指定校の実績を生かして、具体的な授業展開および授業内容・授業評価を研究し改善を図る。	B	観点別評価を盛り込んだシラバス作成の充実をより一層図ることができた。また、生徒の進路に合わせた科目選択の指導を各教科・学年会と協力しながら行うことができた。今後も時代に合わせた教育課程の研究・改善を図りたい。
	学習指導	・生きる力を育む学力をつけるため、生徒の実態を把握しわかる授業の推進と基礎学力の強化を図る。 ・開かれた学校教育を目指し、授業公開などを実施し教育活動を周知する。また、その活動を通して授業改善や教員の資質能力の向上を図る。	B	・学力実態をはかるものとして、外部の「基礎力診断テスト」を今年度も行ったが、その結果を指導に生かすには至らなかった。 ・授業参観・授業公開は予定通り、①5月20日、②6月12日の2回実施できた。参加者数(昨年度)は、①110名(135名)、②179名(120名)であった。中学生の参加動向が増減に大きく影響しており、次年度以降も中学生が参加しやすい日に設定する必要がある。
	キャリア教育	・地域の企業と連携し、職業観を育成する就業体験の規模拡大、実地研修における共同研究の発展により、キャリア教育のより一層の充実を図る。 ・企業と職員との懇談の機会を増やし、連携の強化を図る。 ・高大連携をさらに推進し、先端技術の理解・学びの姿勢向上・プレゼンテーション力の強化を図る。 ・インターンシップをはじめ、キャリア教育による、地域を担い世界に貢献できる人材の育成を行う。 ・コミュニケーション能力や情報活用能力に優れた人材の育成を図る。	B	・キャリア教育推進により、今年度から1学年へ「キャリア教育リーフレット」の配布、2学年で「就業体験報告発表会」を実施した。また、就業体験では、昨年度並みの実施を行うことができた ・昨年度開始した「ビジネスフェア2017」1学年で見学参加も定着し、「産業フェアin信州2017」希望クラス見学も従来通り業種を超えた職業観の育成が図れた。
	資格検定等	各種コンテスト、資格取得や技能検定へ積極的に取り組めるように、案内、指導助言を行う。	B	各種資格試験の案内、補習を計画的に行うことができた。また、ジュニアマイスターに29名(ゴールド14名、シルバー15名)が全国工業高等学校長協会から授与された。来年度も生徒が意欲的に資格取得に取り組めるようにしたい。
進路指導	進路実現	・生徒・保護者の要望に即した進路情報を提供し、生徒の希望・能力・適性に応じた進路希望がかなえられるように指導を行う。	A	1～3年の各学年で進路別ガイダンスを行い、学年・学期ごとの進路対策を実施した。進路指導室を随時閲覧できるよう整備し、多くの情報を提供できた。求人票を迅速に生徒に情報公開し、過去の入社試験情報も提供できた。
		・オープンキャンパス・インターンシップ等の体験を通じて、職業観や将来の生き方を考えさせる。	A	高専・国立大他他の校内説明会を実施、1年生から進路相談会・オープンキャンパスを励行。来年度も更に積極的にキャリア教育を充実させたい。
		・生徒の進路希望実現のために系統的な指導を充実させ、就職先・進学先の情報収集や研究、開拓等を行う。	A	1・2年生からの進路指導体制をより充実させ、個々の進路実現が更に満足がいくものになるよう努めたい。
生徒会	班・同好会活動の充実	・生徒が生き生きと学校生活を送れるよう、班同好会活動の充実を図る。 ・各班や選手の活躍を、学校内外に広く情報発信し活動の励みにする。	A	運動系だけでなく、文化系の班同好会でも、全国大会出場という実績を残すことができ、北信越大会出場の常連校になっている班も出てきている。 また、独自にボランティア活動を行っている班もあった。
	自主活動への支援	・生徒会活動の中に地域連携をひとつの柱として据え、生徒が自主的主体的に企画運営を行い、活動を通して生徒の自主性を育む。	B	安夜里住民自治協議会とは何年にもわたり連携しており、強い結びつきができています。 生徒も年を追うごとに地域の行事を支えている一員だという意識が強まっていると感じるので、今後は生徒会・班同好会だけでなく、各専門科も地域活動に参加できれば良いと思う。
清美	清掃美化活動	・校内清掃の効果的計画と清掃の継続により、校内の美化、ゴミの分別、リサイクル及び軽量化に全校で取り組む。	B	・清掃点検をすることで、学校美化の関心も高まり、清潔な環境の元で学校生活を送る事に貢献できてきています。 ・ゴミの減量と、リサイクル意識も高まってきていると感じます。来年度も継続しゴミの減量をさらに進めていきます。
生徒指導	安全安心な学校	・校内情報の共有化により、職員一致による協力体制を作り、安全・安心な学校作りを行う。	B	安全、安心に過ごせる行動力を養えるよう教育する
	基本的な生活習慣	・頭髪などの身だしなみから生活習慣を見直し、5S・挨拶・時間や期限の厳守等により常識ある行動を取り、社会で通用する基本的な生活習慣とマナーの確立を図る。 ・地域に信頼され、評価される長工生を目指す。	B	成果は概ね、ねらいどおりに現れている。次年度も踏襲していきたい。
開かれた学校づくり	公開授業等	・公開授業や研究授業を通して、外部の意見を参考に教員相互に研修を深め、資質の向上を図る。	B	5月・6月公開授業を行った。学校開放時に実習等の見学を実施し、多くの方に来校いただいた。告知の充実を図るなど、中学生を含め多くの方々に参観いただき、本校への理解を深める施策としたい。
	広報活動の充実	・本校の教育活動を広く理解してもらえよう、学校案内・HPを充実させ、積極的に地域のイベントに参加する。 ・報道機関へ情報提供を積極的に行い、各種メディアを利用して活動情報の発信を図る。	B	ホームページを通じ、本校各専門科の具体的な授業内容に関してPRを行った。HP内にブログを開設し、生徒の活動の様子を迅速に発信した。閲覧件数も多く本校の活動を広く発信することができた。ビジネスフェア・アモレフェスタ等の地域イベントに参加し、生徒達が社会との繋がりを築くとともに、社会とふれあう中で情報発信が行えた。
	PTA活動	・諸々の課題を保護者・職員で共有すると共に、高校生活が有意義になるよう連絡を密にする。 ・家庭との連絡を密にするため、メール連絡網システムの保護者・職員ともに登録数の増を図る。	B	PTA役員と密に連携しながらPTA組織をより実効性のあるものに変革している途中である。次年度、様子を見ながら調整していく必要がある。メール連絡網はかなり定着してきている。
	生徒募集	・学校の魅力を伝えるため、中学校訪問や進学説明会等の企画および内容について一層の充実を図る。 ・広報・情報係と教務係が連携し、中学生や保護者が本校の教育内容に興味・関心を持ち、本校受検につながるような情報発信を工夫する。特に、ホームページ掲載情報の更新・充実を進める。	B	広報・情報係との連携をして、学校パンフレットや学校紹介のプレゼン資料の充実を図った。学校説明会や体験入学では、多くの中学生・保護者の参加を得て、本校の具体的な学習内容の理解を深める工夫をした。授業公開を3回実施し、外部に学校を開いた。進路講話や進路説明会、先生方との懇談等中学校の要望に応えられるよう体制を整えて実施した。今後も、HP・ブログやマスコミ等の活用を含めて、様々な情報発信の充実を目指したい。